

**Q** 土曜授業日にスポーツの試合や塾のテストが重なって参加できない友だちがいます。土曜授業に友だちみんなが参加できるような工夫はありますか。



演壇 香我美小学校  
足達美空 議員(6年)  
高橋奈千 議員(6年)

**A** みんなが参加できるようにするためには、スポーツの試合などが土曜授業日と重ならないようにすることが一番です。すべての学校で同じ日にすることは無理でも、小学校で統一したり、地域で統一したりする日を多くすると日程の調整がしやすくなるということが考えられます。今後も皆さんができるだけ全員参加ができ、楽しく、内容も充実した土曜授業ができるような方法を考えていきたいと思います。(学校教育課長)

夜須小学校  
宗園陽香 議員(5年)  
恒石 凜 議員(5年)

**Q** 農作物は勝手に育たないし、魚は勝手にとれません。生産者がいるからこそ、食べられるものだと思います。このような生産者の減少を加えて、PRなどできないでしょうか。



**A** 生産者を増やすために、農業については、新しく農業を行う人が始めたばかりで経営が不安定な時期に国が資金を出してくれる取り組みがあります。そのうえ、香南市でも独自に農業後継者を支援して農家の担い手を増やす制度を行っています。漁業については、新たに漁業を行いたい人に対して、支援をする制度があります。今後、漁業・農業の就業を増やすためには、興味を持っている若い人たちの意見も参考に、魅力があり将来に希望の持てる職業だということのPRやさまざまな支援が必要と考えています。(市長)

**Q** 地震が発生した時、高齢者や幼児等の避難時に立場が弱い人の安全をどう守っていきますか。また、小中学生が学校で地震にあうことを想定して、どんな対策がありますか。

野市東小学校  
武藤出帆 議員(6年)  
山北卓実 議員(6年)



**A** 市町村は高齢者や障害者、難病の人、乳幼児など災害時に気を配ることが必要な方の中で災害時に一人では避難することが困難で、避難のために支援が必要な人の名簿を作成しています。特に、本人の身体の状態や支援が必要な内容、誰がどこにどのような手段で避難の支援をするのかなどを把握するために、本人や家族と支援をしてくれる自主防災組織や自治会の方々などが話し合っ、みんなが安全に避難できるように取り組んでいます。災害時には、安全な避難ができるよう地域での協力体制が大切ですので、みんなが協力して支え合う、支え合わなければいけないという気持ちを持ってもらいたいと思います。学校では、地震を含めた災害が起きたときにどう対応するかという防災計画と対応マニュアルを作っています。この計画にもとづいて、避難訓練などを定期的に行っています。さらに、大きな地震やそれに伴う津波などで、もし学校からすぐに帰れなくなったりした時のために、学校には数日間分の水や長期保存のきく防災用保存食を備蓄品として置いてあります。防災の学習もさらに充実させていこうにしたいと思っています。(福祉事務所長・教育次長)

**Q** 夜須保幼小中では、合同避難訓練を年間3回行っています。このとき、避難場所に仮設住宅などを建設できるような広さが十分でないと思います。避難してからの生活も安心できるような場所の確保を検討していますか。

夜須中学校  
片岡優里 議員(3年)

**A** 仮設住宅の建設用地として検討している土地は、香南市内22カ所です。それでも大幅に不足している状況ですので、アパートやホテルなどの民間施設の借上げ、空き家の活用などをして避難所確保に努め、香南市以外への広い範囲の避難も検討しています。(防災対策課長)

**Q** 香南市は不登校の児童・生徒をなくすためにどんな取り組みをしていますか。また、その数は減っていますか。何人ぐらいいるのですか。

吉川小学校  
野村紫音 議員(5年)  
増井七海 議員(5年)



**A** 不登校の児童・生徒の数は香南市に合併した平成18年度が小学校で12人、中学校で41人でした。昨年度は小学校で17人、中学校で53人です。その間に増減はありますが、あまり減っていない状況です。学校に来られなくなる原因はさまざまですが、まず、友だち同士がお互いを大切にし合い、協力し合う、楽しい学級づくりに取り組んでいます。また、勉強が分からなくなって学校がつらくならないようにみんなに勉強が分かるよう授業を工夫する取り組みをしています。学校に来づらくなっている児童・生徒には学校に来て楽しく生活がしてもらえるように、また、学校に来られない児童・生徒がこれから出ないように取り組んでいます。(学校教育課長)

**Q** 避難所になった学校は具体的にどのように活用されますか。また、私たちが避難所で担う役割には、どんなことが想定されますか。

香我美中学校  
大塚日乃莉 議員(3年)

**A** 避難所になった学校は、地域全体の必要なことに対応するための品物や情報、人材の中心として機能する「被災者の支援拠点」としての役割を持っています。皆さんに担ってほしいのは、食料品や水などを配る手伝いや避難所の衛生状態を保つための室内やトイレなどの掃除などです。その他にも高齢者の方の話し相手になって元気づけたり、移動のときの手助け、自分より年下の子もたちの遊びや勉強などを見てあげたりすることなどが想定されます。(市長)

**Q** 他の地域には大きなスーパーがあるけれど、岸本地区にはありません。地域にはお年寄りも多く、歩いて行くには大変です。今後、岸本地区の買い物事情のために、行政として何か取り組むことはありますか。

岸本小学校  
松村成 議員(6年)  
山中和也 議員(6年)



**A** 買い物の問題は、岸本地区だけでなく、他の地域でもだんだんと増えています。香南市では、買い物のサポートとして、主に3つのことについて取り組んでいます。

まず1つめは、「香南市営バスの運行」です。このバスに乗ることにより、大きなスーパーの多い地域へ行く事ができます。また、75歳以上の方や、小学生の皆さんは、運賃が半額ですので、皆さんも気軽に利用してください。2つめは、「集落活動センター事業」です。この事業は、地域でのコンビニ営業や、お弁当の宅配サービス、また買い物タクシーの運行などが考えられます。岸本地区では、現在、地域の皆さんと具体的な話し合いを進めています。3つめは、「買い物専用バスの運行」です。このバスは、香南市社会福祉協議会が、車を運転できない高齢者の方をお家からスーパーへ月に数回送迎をしています。今後は、今まで以上に高齢化が進むため、買い物やゴミ出しなど、日常生活に対する不安を持つ人が多くなると考えられます。こういった問題に対して、地域の皆さんと共に、安心で暮らしやすい街づくりを進めていきます。(市長)

**Q** 香南市のシンボルである三宝山の城をこれからどうしていく予定ですか。また、香南市の文化財である野市中学校の裏山にある「トーチカ」をもっとアピールしてはどうですか。

演壇 野市中学校  
横田晃大 議員(3年)

**A** 香南市では、三宝山を観光の中心拠点にしたいと、活用方法や方向性をまとめた計画を本年度中につくる予定です。三宝山を香南市だけでなく高知県の顔として、シンボル性を備えた観光交流の中心となる場所にするためにはどのようなものがふさわしいのか。現在、市と県の職員でアイデアを出し合い、話し合いを進めているところです。三宝山が物部川流域の観光の中心拠点としてその役割を担うとともに、高知県の新しい観光名所として多くの人が訪れる場所となるよう取り組んでいきたいと思っています。戦争の記憶を記録し、トーチカなどの戦争遺跡を通じて当時香南市で何があったのか知り、それを次の世代へ伝えていくことはとても大切なことです。トーチカがある場所の近くに看板を立てアピールしていくことも合わせて考えていきたいと思います。※トーチカとは機関銃、大砲の小さなものを備えたコンクリート製の敵から身を守るための小型の陣地です。(商工水産課長・生涯学習課長)

